

## シリーズ 校長先生が若かったころ ⑦

さて、うわさ話のコラムが異常に長くなりましたが、間違っただけで伝えられる例として「勘違い」という現象もあります。

以前、中学校で学級担任をしていた時のことです。普段は教室で生徒と一緒に給食を食べるのですが、この日は会議があって当番の生徒に先生の給食を会議室に運んでくれるよう頼みました。教室では私の給食配膳の担当は大森君でしたので、たまたま、職員室へ来た生徒に「大森に先生の給食を会議室に運ぶよう言ってくれ！」と頼みました。会議室へ運ばれてきたのはもっそう飯のように盛り上げられた大盛りの給食でした。



さらにこの話にはオチがあります。

この給食を運んでくれたのは同じ給食当番の「小森君」だったのです。これうわさ話ではなく本当の話です。

さらにさかのぼって、小学校に勤務していた時の話です。

体育が苦手です。いつも体育の前の時間には何とか休むすべはないかと思案をめぐらす1年生の男の子がいました。とりあえず、何かと助けになってくれる6年生に「僕、頭いたいんやけど体育できるかなあ。」と相談？してみました。すると、たまたま通りがかった養護教諭の先生に6年生が小声で「この子また仮病ですよ。」

すると、それが聞こえた1年生の男の子は急に元気を出して、職員室へ走って行って、1年担任に「先生、僕ケビョウなので体育休んでもいいですか？」

これもうわさ話ではなく本当の話です。